

せいそう 労働者 速報

2025 年 3 月 12 日
No. 1225
東京清掃労働組合
企画・総務局

石川一雄さん 逝去

狭山事件の再審と『無罪』を求め奮闘中に

62 年前に埼玉県狭山市で女子高校生が殺害された「狭山事件」で、「部落差別が生んだ冤罪」を訴え、裁判のやり直しを求めている石川一雄さん(86)＝無期懲役が確定し1994年に仮釈放＝が、3月11日夜、狭山市内の病院で亡くなりました。石川さんは、2024年末に肺炎にかかり、体調を崩して療養中だったとのこと。

この間、東京清掃としても運動方針に基づき、「すべての差別をなくす闘い」を自主的交流組織の清掃・人権交流会とともに取り組みを強化してきました。

そのようなことから、昨年の10月には28年連続となる狭山現地調査を開催し、石川一雄さん・早智子さんにも参加していただき、再審開始に向けた決意を熱く語っていただいた記憶が強く残っています。

この開催を迎える数日前、共に冤罪に苦しんでいた袴田事件の袴田巖さんの完全無罪が確定し、石川一雄さんにとっても大きな出来事でありました。喜びの声とともに「次は狭山だ!」「私の冤罪も晴れる。今度は大丈夫だ!」と気持ちも新たに決意を述べていましたし、そして周りの誰しもがそう思ったことは言うまでもありません。

1月14日で86歳を迎えていた石川一雄さん。年齢的にいえば、身体的な衰えは感じてきてはいたものの、気持ちと魂だけは真っすぐ力強く持ち続けていました。

これまで62年という長きにわたり闘い続け、まもなく再審の壁を突き破る可能性があったにもかかわらず、石川さんが亡くなられたことは無念でなりません。一番悔しいのは、石川一雄さんご本人だと思います。

石川さんの冤罪を晴らし、権力の暴挙を正す取り組みを、引き続き東京清掃労働組合全体で取り組んでいきます。各支部のご理解とご結集をお願いします。

石川一雄さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。



2024 狭山現地調査時の
石川一雄さん